

3学期始業式 校長あいさつ

校長 山田義二

明けましておめでとうございます。2026年の幕開けです。昨年は3年生の　さんに披露していただきました“かぎやで風”、今年は1年生の　さんと　さんに踊っていました。新しい年の幕開けにふさわしい踊りでした。改めて拍手をお願いします。結婚式や地域の新年会などで見たことがあるという人もいると思いますが、かぎやで風とは古くからおめでたい宴席の幕開けで踊られるものでした。皆さんも自分の結婚式でプログラムに入れるとと思います、覚えていてください。そして、横幕の下をご覧下さい“迎春”素晴らしい墨書ですね。これは1年生の　さんに揮毫してもらいました。新しい年の幕開けにあった墨書ですね。こちらも拍手をお願いします。

さあ、3学期が始まります。冬休みはどのように過ごしましたか。それぞれがそれぞれの思いや考えに基づいて過ごした冬休みだったと思います。まずは、皆さんに事件・事故に巻き込まれたという報告がなかったこと、そして皆さんに今日の始業式に登校してきてくれたことが一番よかったです。本当にありがとうございます。

昨年は皆さんに「チーム宜野座」として学校活動の様々な場面で参加・協力してもらいました、ありがとうございました。引き続き、ことばのキャッチボールをしながら、周りの人の話は心で聞くようにして、いい時間を過ごして、学校として一步前進していきたいと思います。

今日は「節目」という言葉から2つお話しします。「節目」とは、物事の区切りとなる大事なところです。年の初めもその一つですね。

まず1つめの「節目」、3年生はあと2ヶ月で卒業式を迎えます。1・2年生は修了式を迎えると一つ進級します。それぞれが節目を迎えます。次のステージに上がる未来を意識しながら卒業式、修了式を迎えてほしいと思います。何を思い、何を意識して、どう行動するのか、一人ひとりが考えることが大事です。未来を見通して、節目を迎える準備をしてほしいと思います。

2つめの「節目」は、本校は来月2月11日で80歳の節目の誕生日を迎えることになりました。宜野座高校は、沖縄戦終結直後、生活環境も十分でないなか、「教育が何よりも大事である」とする地域住民の声を受け、昭和21年2月11日に創立しました。沖縄戦の組織的戦闘が終わった6月23日から7ヶ月余りで誕生した学校です。そのときの地域住民の気持ちに思いを馳せると、沖縄の未来を担う子ども達に1日でも早く高校での学びを提供したいという気持ちがあったのではないかと思います。様々な混乱の中での開校だったと思いますが、今このように宜野座高校が存在することを考えると、地域の皆さんに期待に応える学校にならなければいけませんね。

そのよう中、昨年は同窓生で校長と話がしたいという人がたくさんやってきました。その中で印象的だったのは、80代の方で校長室から見える庭園の大きな岩を見て「この岩は授

業のときにトラックに乗って大宜見までもらいに行ったさ。何の授業だったかなあ」と言つていきました。創立当初は教材や教具も十分ではない時代、教材も自分たちで探し、自分たちで作り、さらには学校自体も自分たちで作っていたと思われます。現在では学校を作るといつてもピンとこないと思います。

創立 80 周年記念式典と祝賀会は 1 月 24 日に開催されます。この節目の年に先輩と一緒に宜野座高校の歴史を振り返り、未来と一緒に考えようではありませんか。先輩は後輩にバトンを託します。後輩は先輩から託されたバトンを持ち宜野座高校の未来を創ります。80 年の歴史を感じながら宜野座高校の未来を一緒に創っていきましょう。

そのためにも「チーム宜野座」としての一体感はとても大事なことです。2 学期の終業式でも話した通り、学校という社会で動く我々の行動は、何かと「人」と「人」とのつながりの中で動いています。人のために動く、人と一緒に動くというようにそれぞれの役割をこなしながらチームとしての動きを大事にしていきましょう。

皆さん一人ひとりが卒業式・修了式に向けて自分の未来を見通した準備をすることが宜野座高校の未来を創ることになると思います。先輩と後輩との親睦を通してチーム宜野座として一步前進できる 3 学期を過ごしてもらいたいと思います。一步前進とは、未来に向かって一步踏み出すことです。その一歩が皆さんの未来と学校の未来を創ります。

では、私の話が皆さん的心に届いていることを期待して、3 学期始業式のあいさつとします。静かに聞いてくれてありがとうございました。